

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	4月	6・7日	(記入者) 西田 裕美	
取材参加者	石井	井本	小倉	神野	西田
	宮本	本井			
取材対象先	奈良市：元興寺の木造不動明王坐像				

所在地	奈良市芝新屋町12				
所有者(取材 対応者)名	元興寺		連絡先		
	池田圭誠住職代理 (個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：池田圭誠住職代理				
市町村 指定文化財	彫刻 1軀	木造不動明王坐像 1989(平成元)年3月7日指定			
	建造物 棟	名称(指定年月日)			
文化財指定理由	江戸時代において、湛海とともに傑出した造像活動をおこなった清水隆慶の、壮年期における明確な作品として貴重なもの。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消火器あり。期間限定の拝観期間中は火を使うことを避けるためにLEDろうそくを使用した。燭台に載せることができるように、ろうそくの土台を池田師が手作りした。	工夫し手作りされている。
獣害対策	設備・対策・点検・通知方法など 本堂にはアライグマの被害は無いようだ。床の木の傷みは害虫による可能性もある。今後、本堂全体の様子を見ていくとのこと。	特に無い。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	元興寺塔跡である華嚴宗元興寺において、1930(昭和5)年に住職を命じられ復興を成し遂げたのが水野圭真師。その後徒弟の前田圭立師が住職となるが、圭立師が当時幼少であったためしばらくは圭真師の跡を継いで金龍寺住職となった甥で徒弟の池田圭中師が華嚴宗元興寺住職を兼務していた。2023(令和5)年途中から池田圭中師の孫である池田圭誠師が住職代理となって境内整備や期間を限定して本堂も拝観できるようにしている。池田圭誠師は、電気系統が古いことで火災の原因にならないか懸念するとともに、雨漏りなど全体的な本堂の傷みを修復できればと考えておられる。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

『華嚴宗元興寺所蔵歴史資料調査報告書(元興寺文化財研究所による)』を読んで、昭和初期に華嚴宗元興寺を復興した水野圭真師の驚異的な行動力に圧倒された。水野師は1929(昭和4)年に東大寺宝蔵院の清水公俊に弟子入りして華嚴宗僧侶になった。近畿・四国・中国山東省など各地へ勧進に行くと同時に史跡指定や寄託文化財の返還による堂舎の充実により参詣者を増やし、華嚴宗元興寺の復興を1934(昭和9)年までに終わらせた。新規に作る場合は古材を用いて由緒を引き継ぐようにした。法興寺での行事が日本で最初の法会であったことを意識して行事も復興し人を集めた。由緒ある元興寺であるからこそ可能だった面もあるが、復興し継承することにおいて学ぶことが多いと感じた。現在、池田圭誠師が地域の方々とともに熱心に元興寺継承に取り組んでおられる。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	4月	6・7日	(記入者) 西田 裕美	
取材参加者	石井	井本	小倉	神野	西田
	宮本	本井			
取材対象先	奈良市：元興寺の木造不動明王坐像				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 木造不動明王坐像

文化財（正面写真）	文化財（角度を変えて、写真）
 <div data-bbox="539 450 715 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 像高五一・三cm 座・光背付 </div> <div data-bbox="539 703 762 837" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 25 奈良市指定文化財 不動明王坐像 清水隆慶 元禄9(1696)年 奈良市・元興寺 蔵 </div>	 <div data-bbox="1150 495 1310 797" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 右左玉 目目を でを み細 はめ、 る。 </div>

文化財（安置状態の全体写真）	文化財（部分拡大）
	 <div data-bbox="1150 943 1310 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> た条 文帛 様に 描か れ </div>

文化財の由緒などを記入 所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

<p>像底と光背裏面の銘文により、元禄九年(1696)に東大寺上之坊俊雅律師の発願によって上之坊本尊として清水隆慶が制作し宝山寺湛海律師の開眼になることが知られる。清水隆慶は京都の仏師で4代にわたって活動したがこれは初代の作。像容彩色ともに湛海の指示のもと制作された。湛海制作の不動明王の作風に初代清水隆慶が深く関わっているといわれ、その点でもこの像が重要。水野圭真師により元興寺の復興のために東大寺勧進所宝蔵からもたらされた。</p>	<p>元興寺は日本最初の仏法興隆の寺である飛鳥寺(法興寺)の法灯を引き継ぎ718(養老2)年平城京内に創建された。1451(宝徳3)年の土一揆の大火の時も五重塔は火災を免れ、江戸時代末の1859(安政6)年の火災まで奈良時代の塔が存在していた。また、焼け残った長谷寺観音頂上仏面の一つで造ったと伝わる中門の十一面観音が塔のそばに移され長谷寺参詣の前には元興寺観音堂に参詣するなど信仰を集めていた。江戸時代の『大和名所図会』には「元興寺・御霊社」として元興寺五重塔・塔のすぐ横の元興寺本堂、そして隣接する御霊社が描かれている。</p>
--	--